

治療法目覚ましく進歩

病院の 実力

*愛媛編 129

病院の実力「肺がん」
医療機関別2017年治療実績
(読売新聞調べ)

医療機関名	手術患者数 (人)	放射線治療(根治的照射)患者数 (人)	薬物療法を受けた患者数 (人)
徳島県			
徳島大	114	90	37
徳島赤十字	57	22	5
香川県			
香川大	121	134	35
三豊総合	47	24	8
香川労災	39	10	9
坂出市立	35	31	0
高松市立みんな	23	19	6
愛媛県			
国・四国がんセ	185	198	61
愛媛大	106	24	51
松山赤十字	78	50	8
済生会今治	50	20	12
市立宇和島	34	37	6
HITO	1	3	0
高知県			
高知医療セ	92	92	39
高知大	89	20	3

「国」は国立病院機構、「セ」はセンター。

全国の調査結果は19日の「安心
の設計面」に掲載しました。

今回は、がんの年間死亡数で最も多い肺がんを取り上げる。一覽表には2017年に新たにを行った治療の実績を掲載した。

肺がん

肺がんには四つのタイプがある。まず小細胞肺がん、非小細胞肺がんが大別され、非小細胞肺がんはさらに、腺がん、扁平上皮がん、

標準的な手術は、がんのある肺葉という部分の切除だ。近年、肺葉より狭い範囲の「二区域」などを切除する縮小手術も行われる。胸腔鏡を使う方法では今春、ロボット手術も保険が適用されるようになった。放射線治療のうち、根治を目指す照射は、持病で手術が難しい患者らに行う。

大細胞がんに分かれる。治療法は、手術、放射線療法、薬物療法の三つ。がんのタイプや進み具合、全身の状態により、複数の治療法を組み合わせて行うこともある。

がん細胞を狙い撃ちする定位照射も普及している。薬物治療は、多くの患者が受ける。特に、再発・転移患者にとっては重要な。抗がん剤のほか、がんの遺伝子変異に応じて使う分子標的薬や、免疫の働きを高める免疫チェックポイント阻害薬も、次々と新薬が登場している。

胸腔鏡下手術で肺機能温存

がんの死亡原因ではもっとも多い肺がんについて、愛媛大病院の佐野由文・呼吸器センター長(58)に話を聞いた。(聞き手・大谷雄一)

——患者の特徴を教えてください。
60歳以上が多く、社会の高齢化に伴い、患者数は増える傾向にあります。症状は胸の痛みやせき、血たんなどがありますが、症状が出る頃には、がんがかなり進行した状態です。

——早期発見にはどうすればいいですか。
初期は症状がほとんどなく、検診や他の病気で受診した際に見つかるというケースが大半です。レントゲン検査では、小さいがんや、心臓、横隔膜の裏にあるがんは見つけられず、CT検査が有効です。費用はかかるが、自治体の補助制度もあり、2年に1回受ければ、手遅れになることはまずありません。

——考えられる原因は何ですか？
たばこは確実にリスクを増す要因になります。アスベストなどの発がん物質が原因になる場合もあるが、たばこを吸わないことが一番の予防です。

愛媛大病院 佐野由文・呼吸器センター長

——手術について教えてください。

以前は背中から胸にかけて切開し、肋骨を切って手術をしていました。しかし、最近では2.5センチ程度の小さな穴を3、4か所開けて、胸腔鏡や鉗子を入れ、モニターを見ながら操作する「胸腔鏡下手術」が普及しつつあります。器具が進歩して細くなり、1か所の穴から複数の器具を入れる手術も可能になり、術後の痛みはかなり軽減され、肺機能も温存できます。胸腔鏡を使ったロボット手術も4月から保険の対象となり、これから普及していくと思います。

——手術以外の治療法はありますか。
がん治療全体に言えることですが、放射線治療、抗がん剤治療、免疫治療の3本柱を患者のタイプに応じて組み合わせます。最近副作用が軽い抗がん剤もあり、治療法の選択肢が増えましたが、肺がんは治りにくいがんであることは変わりません。呼吸器科の医師と話し合い、自分にあった治療法を見つけてください。

